



センターWebページへ

トップ

[研修講座の概要](#)[講座紹介・受講者の声](#)[研究発表会レポート](#)

ハイライト:

「平成25年度センター研修講座」を特集します。

当センターでは、来年度も引き続き、効果的な研修の実現に向けて取組を進めて参ります。

目次:

平成25年度 研修講座の概要	2
講座紹介・受講者の声	3
研究発表会レポート	4

青森県総合学校教育センター

センターだより

巻頭言 「教育相談課の変革」

現在、日本では長引く不況、経済格差による所得の二極化、少子高齢化等により社会環境は大きく変化しています。それに伴い教育を取り巻く環境も急激かつ複雑に変化している今、学校では「いじめ」「不登校」「校内暴力」「学級崩壊」など多くの問題を抱え、また児童生徒がより安心して学ぶことができる環境作りが求められています。そのため、当センター教育相談課も時代の変化に対応すべく、研修講座の在り方を見直す時期と考え、平成24年度から講座内容等を大きく変更しました。

青森県総合学校教育センター
教育相談課長 岩川 亘宏

これまで教育相談課の講座はできるだけ多くの教員に教育相談について知ってもらうために、「教育相談初級」については各地域に出向いて講義を行ったり、センターで実施する場合でも一年に2度開催していました。しかし、子どもの減少に比例して教員の数も減ってきていること、教育相談が広く教員に周知されてきたことから、一年に1度の開催にしました。そして、より現場が求めているものに伝えるため、「教育相談」の講座をこれまでのステップアップ方式から、フラット方式へと変更しました。これまでは教育相談初級を受講しなければ、中級を受講できない。中級を受講して初めて上級を受講できる。そして、上級修了者のみが教育相談長期研修講座を受講できるという方式でした。それをやめたということは「教育相談」の受講制限を外したことを意味します。これまでの「教育相談初級・中級・上級」の3講座を「教育相談Ⅰ～Ⅳ」の4講座とし、今自分に必要なスキルを身につけるため自由に講座を選択できるようにしました。

もちろん教育相談以外にも、教育相談課では、1日講座の開催や新規講座を立ち上げるとともに、年間を通して常に受講者のニーズに応え、学校支援に努める工夫をしています。

当センターが現在の青森市大矢沢に設置されて今年で15周年になりますが、先生方には是非センターを活用していただけるよう、また「教師力」「授業力」を高める一助になるよう努力していきたいと思っております。

平成25年度 研修講座の概要

[トップ](#)

[研修講座の概要](#)

[講座紹介・受講者の声](#)

[研究発表会レポート](#)

青森県総合学校教育センターでは、本県学校教育の充実振興に資するため、教職員の専門性及び資質能力の向上を目指した研修講座を、青森県教職員研修体系に基づいて編成しております。平成25年度の研修講座の編成に当たっては、学校（教職員）支援を全面に掲げ、以下に示した方針に基づいて、受講者が「この研修を受講してよかった」と思えるように、内容や開催期間等の大きな見直しを行いました。

＜方針＞・専門（教科・教科外）研修においては、授業力向上を観点とし、授業者（受講者）が授業改善を図れるような具体的な方策を講座で提供する。

- ・センターへ来ていただく研修講座から、センターが出かけていく研修講座（サテライト講座）を開催する。
- ・よりセンターへ来やすくするため、一日講座の開催を推進する。
- ・縦のつながり（校種間の接続）を考え、同一教科において、校種を超えた研修講座を推進する。

その結果、基本研修62講座、職務研修22講座、専門研修131講座、特別研修5講座の計220講座を構築し、そのうち、平成25年度は218講座を開催いたします。平成24年度は196講座の開催でしたので、22講座増となります。特に、平成25年度の目玉でもあるサテライト講座については、教科教育に関わる講座でも開催いたします。その概要は、次の通りです。

○講座番号206～211

「これからの授業を考える！小・中学校国語科指導法講座」

言語に関する能力の育成の中核を担う国語科で、読解力育成の授業力の在り方について研修する一日講座。県内6地区で開催。

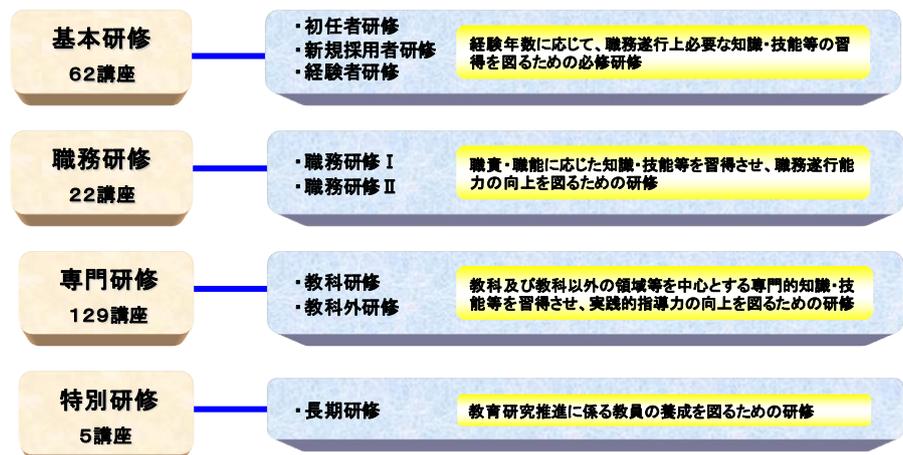
○講座番号371～376

「わかる！できる！実技講座」

音楽、家庭科、体育科のダンス、それぞれ実技中心の一日講座。3つのコースからいずれかを選択して受講する。県内6地区で開催。

このほかにも、既存の講座を整理・統合等をして、新規講座として40講座開催いたします。また、教科外研修の情報教育に関する講座では、22講座が一日講座です。さらに、特別支援教育に関わる講座では、授業力向上（授業改善）を目的に、研修内容を整理・統合し、新たに8つの講座として立ち上げました。特別支援学校、特別支援学級だけでなく、通常の学級の先生方のニーズに対応できるよう再編成しました。

個々の講座の概要については、3月上旬に各学校にメール配信しております「平成25年度研修講座案内一覧」をご覧ください。受講申込みの際の参考にしてください。



※平成25年度は、専門研修において2講座休講（隔年開催のため）

[トップ](#)[研修講座の概要](#)[講座紹介・受講者の声](#)[研究発表会レポート](#)

茨城大学
教授 新井 英靖 氏



「自立活動研修講座」演習の様子



「青森おおぞら学園」見学の様子

講座紹介・受講者の声

これまでに開催された講座の様子を、受講者の声を交えて担当者が紹介します。

「特別セミナー」

学校現場における喫緊の課題に対応する特別セミナーが11月22日（金）に開催されました。昨年度の内容の発展として、法令遵守に関する制度や不祥事の防止システムについての認識を高め、スクールコンプライアンスについての日常的な視点や方策についての研修を深めることをねらいとし、講師に東京女学館大学准教授 黒川 雅子 氏をお迎えしました。「現場に生かすスクールコンプライアンス」をテーマに、参加者は110名で、午前中は判例分析を交えた黒川先生の弁舌さわやかな講義、午後は校種別に熱心な事例研究が行われました。

不祥事が発生するたびに、スクールコンプライアンス研修の必要性が説かれている昨今、参加の先生方は課題意識を持ち、白熱した意見交換が行われました。「教育法規」を教育実践を拘束するものとネガティブに受け止めるのではなく、およそすべての教育活動の根底に存在し、教員の教育活動の「後ろ盾」として機能していることを再確認するセミナーとなりました。

◆受講者の声

- ・予想以上に興味深かったです。具体的な事例、判例により自分の学校や教育活動の実際場面に置き換えて考察することができました。

「講座番号709 自立活動研修講座」

この講座は、特別支援教育の要ともいえる自立活動について、その理念から指導計画の立案そして指導内容の選定、具体的な指導方法などについて研修し、特別支援教育に携わる教員としての資質を高めることを目的に開催しています。

今年度、新たにお招きした茨城大学准教授 新井 英靖 氏には、「自立活動の指導と評価」というテーマで講義・演習をしていただきました。知的障害教育に自立活動が取り入れられにくかった理由、実態把握の目の付け所、教材・教具の工夫など知っているようで知らなかったことに気づかされることがたくさんありました。

◆受講者の声

- ・体を使っての演習は、まさに「目から鱗が落ちる」ことばかりで、新しい発見の連続でした。
- ・自立活動の授業をするにあっては、具体的な目標設定を心がけることが最も大切であり、そうすることによって指導の工夫がしやすくなったり、評価が容易になることがよくわかりました。
- ・知的障害教育に「自立活動」の時間が特設されにくかった歴史的な経緯がわかりました。

「講座番号606 より効果的な生徒指導体制づくり研修講座」

関係機関についての理解を深め、日々の連携と緊急時の連携を築いていこうとする意識を高める目的で、今年度新たに立ち上げた講座です。

県警察本部、青森少年鑑別所、青森少年院の職員の方々の講義に加え、県中央児童相談所、青森おおぞら学園のいずれか一方を選択し、実際に見学しました。

また、当センター内の教育相談課、特別支援教育課の施設も合わせて見学し、連携先としてのセンターについても理解を深めました。来年度は、見学等について、さらに充実した講座になるよう検討していきます。

◆受講者の声

- ・事例研究によって、具体的な連携先や手順、留意点が明らかになって良かった。複雑な背景の事例もあり、校内で研修を重ねる必要性が高まった。
- ・今回、講座を申し込む直接のきっかけになったのが施設見学だった。子どもに関わる職に就いている人間は必ず知ったり見たりしておかなければいけない所だと思う。
- ・鑑別所と少年院の概要を知ることができて、今回の目的の一つが果たせた。実際の手続きの流れが複雑で法規の勉強をする必要性を感じた。

センター研究発表会レポート

[トップ](#)
[研修講座の概要](#)
[講座紹介・受講者の声](#)
[研究発表会レポート](#)


センター研究発表会
(部会別研究発表会－小中学校言語活動－)



センター研究発表会
(部会別研究発表会－教育相談－)

平成25年1月9日(水)、当センターを会場に「平成24年度青森県総合学校教育センター研究発表会」が開催されました。この発表会は、当センターにおける研究成果を教育関係者、一般の方を対象として発表し、本県の教育向上に資するという趣旨で毎年行われているものです。

今年度は、一般参加者が119名、10年経験者が127名、長期研究講座受講者16名の計262名の参加者があり、センター研究発表会に対する関心の高さが感じられました。

指導主事、研究員、長期研究講座受講者の計29名が教育相談、特別支援教育、産業教育、教科教育の4つの部会に分かれ、計27テーマの発表をしました。いずれの発表も今日的な教育課題をテーマにした内容であったため参加者は真剣な態度で臨み、充実した研究発表会となりました。

教育相談では、「コミュニケーション能力や人間関係を築く力を身に付けるための適応指導プログラムの開発」など5つの発表、特別支援教育では、「発達障害児のための支援システムに関する研究(2)」など6つの発表、産業教育では、「タブレットPCを活用した授業支援に関する研究」など3つの発表、教科教育では、「小学校・中学校の教科等において、言語に関する能力を高め言語活動を充実させるための指導の在り方についての研究」など13の発表が行われました。

研究の成果については、研究紀要や研究報告にまとめ、当センターのWebページでも閲覧できるようになりますので、御覧いただき実践に役立ていただければ幸いです。お忙しい中、当センターにいらっしゃいました皆様方、誠にありがとうございました。来年度も多数の参加をお待ちしております。

編集後記

日本は、四面環海の海洋国であるため、国境は海を隔てた向こうにあるものです。そうした中、先日、アメリカ合衆国から歩いて、国境を越えてメキシコに入国する経験をしました。

メキシコに入国する際には、回転式の柵を越えるとパスポートのチェックすらなく、しばらく歩くと気が付いたら、そこはすでにメキシコです。しかし、そんな国境を越えると言葉や服装、習慣が異なり、街の雰囲気や空気も一変します。国境の街をしばし散策し、今度はアメリカへ再入国。「行きはよいよい、帰りは怖い」という歌がありますが、気が付いたら入国していたメキシコからアメリカに再入国するのは、車も人も大行列。行列に並んでから、アメリカに再入国するのに2時間かかりました。もちろんパスポートのチェックや入国のための質問もされます。いかにアメリカがメキシコからの不法入国に神経質になっているかを実感しました。

メキシコでは、5歳くらいの女の子がガムを売っていたり、車いすの親子が物乞いをしていたりと、いろいろ問題も多い日本の社会保障制度が素晴らしく感じられる一日となりました。

(広報委員 神 和宏)